

「英語史研究会第31回大会」報告

佐田陸 (SATA HITOSHI)
(東京外国語大学大学院)

概要

- 主催：英語史研究会
- 開催日：2022年3月20日(日)
- 発表件数：4件+シンポジウム1件
- 昨年に続きオンラインで開催

2

発表紹介

- 木原桃子氏（慶応義塾大学大学院）
複合数詞の変遷とその要因の再分析
一名詞句の統語を中心として

*学部生や英語史に明るくない方のために、用語などを平易に言い換えて紹介する部分があります

3

発表の要点

- 現代英語で「21」（←複合数詞）

twenty-one (=20・1)

- 古英語（5～11世紀）では...

one and twenty (=1・と・20)

4

発表の要点

- 中英語（12～15世紀）におけるバリエーション
 - one and twenty
 - twenty and one (=20・と・1)
 - twenty-one
 - four score and one (=廿・と・1)

5

発表の要点

- 変化の要因に関する従来の見解
 - Rissanen :
 <20・と・1>が韻文特有の言い方として出現
 - Schibsbye :
 フランス語の影響で<20・1>が出現
 - Hashimoto :
 ヘブライ語やラテン語の影響で古英語期の聖書からあった

6

発表の要点

- 変化の要因に関する従来の見解
 - Rissanen :
 <20・と・1>が韻文特有の言い方として出現
 - Schibsbye :
 フランス語の影響で<20・1>が出現
 - Hashimoto :
 ヘブライ語やラテン語の影響で古英語期の聖書からあった

7

二段階の調査

- コーパスによる複合数詞の型の調査
- 一次資料による名詞句の統語構造の調査

8

コーパスによる複合数詞の型の調査

- Dictionary of Old English Web Corpus (DOEC)
 - トロント大学が中心となって開発
 - 約300万語
- Corpus of Middle English Prose and Verse (CME)
 - ミシガン大学が中心となって開発
 - 300以上のテキスト

9

コーパスによる複合数詞の型の調査

- 古英語 (DOEC) における複合数詞の型

	20s	30s	40s	50s	60s	70s	80s	90s	Total
<1・と・20>	262	128	69	40	101	73	39	52	764
	100.0%	100.0%	98.6%	97.6%	100.0%	100.0%	97.5%	92.9%	99.1%
<20・と・1>	0	0	1	1	0	0	1	4	7
	0.0%	0.0%	1.4%	2.4%	0.0%	0.0%	2.5%	7.1%	0.9%

* 合計は報告者が算出

10

コーパスによる複合数詞の型の調査

- 中英語 (CME) における複合数詞の型

	20s	30s	40s	50s	60s	70s	80s	90s	Total
<1・と・20>	714	420	267	192	108	59	18	1	1,779
	91.7%	89.2%	81.7%	83.8%	54.5%	52.2%	50.0%	2.8%	81.3%
<20・と・1>	65	51	60	37	90	54	18	35	410
	8.3%	10.8%	18.3%	16.2%	45.5%	47.8%	50.0%	97.2%	18.7%

* 合計は報告者が算出

11

コーパスによる複合数詞の型の調査

- フランス語からの影響の傍証 (CMEより)

- <廿・と・1> cf. ⁹⁰ [三] quatre-vingts et dix (=4×20・と・10)

40s-50s	60s-70s	80s-90s	above 100
1	107	137	51

↓木原氏のスライドに従い「11」

- <60・と・11> cf. 「70」 soixante et dix (=60・と・10)

<60・と・11>	<11・と・60>
75	1

12

コーパスによる複合数詞の型の調査

- Cursor Mundi : 14世紀に北部で書かれた長詩
→バージョンによる表記の違いに着目

<30・年・と・9>	<9・と・30・年>
<Cotton...>	<Göttinge...>
He regnd <u>thritte</u> yeir <u>and</u> <u>nine</u>	He reyned <u>nine</u> <u>and</u> <u>thritti</u> <u>gere</u> ,
Wel he luued was wit <u>drichtin</u>	wele was he loued wid iesu <u>dere</u>

13

コーパスによる複合数詞の型の調査

- 特に60以上において変化する傾向
- フランス語との接触や翻訳の影響
- 脚韻に合わせた複合数詞

14

一次資料による名詞句の統語構造の調査

- 等位構文（形＋形＋名）の史的変遷との関連に着目
 - 現代英語の場合：
 - good and true men (=Aな・かつ・Bな・X)
 - men good and true (=X・Aな・かつ・Bな)
 - 古英語の場合：
 - good men and true (=Aな・X・かつ・Bな)
 - (↑ 中英語期には消失)

15

一次資料による名詞句の統語構造の調査

- 複合数詞の場合
 - seofon and twentig gears 「27年」 (=1・と・20・X)
 - thritty dayes and two 「32日」 (=20・X・と・1)
- 主要部名詞がどこに現れるか？
 - Cursor Mundi
 - Canterbury Tales など計8点の中英語のテキストを対象に

16

一次資料による名詞句の統語構造の調査

- 複合数詞の統語構造の変化

	<1・と・20>	<20・X・と・1>	<20・と・1・X>
13世紀	106	18	9
14世紀	20	8	1
15世紀	13	11	14

- <1・と・20>型→<20・と・1>型
- <20・X・と・1>型→<20・と・1・X>型

17

報告者補足・感想

- 変遷の実態は分かったが、要因について具体的な結論には至っていない？
- フランス語の影響を受けた傍証はあるが、フランス語の果たした役割の大きさについては議論の余地あり？

18

報告者補足・感想

- 現代ゲルマン諸語の複合数詞

- <1・と・20>型 :
einundzwanzig (Ge), eenentwintig (Du), enogtyve (Da)
- <20・と・1>型 : tuttugu og einn (Ic)
- <20・1>型 : tjuogoett (Sw), tjuoett (Nor)

北ゲルマン諸語ももとは<1・と・20>型
→<20 (・と)・1>型への変化は自然な流れに過ぎない？

19

発表紹介

- シンポジウム

「英語史教育の展望—いかに英語史研究の成果を活かすか」

- 司会：堀田隆一氏（慶應義塾大学）
- 登壇者：
吉田雅之氏（早稲田大学），山本史歩子氏（青山学院大学），
矢富弘氏（熊本学園大学），森田真登氏（慶應義塾大学大学院）

20

シンポジウムの要点

• 人文系の学問が軽視される中、英語史に対する関心は案外高まっている？

• 教職課程での必修化

• 数々の関連書籍

• 片見 彰夫・川端 朋広・山本 史歩子（編）『英語教師のための英語史』 開拓社, 2018 年

• 朝尾 幸次郎『英語の歴史から考える英文法の「なぜ」2』 大修館書店, 2021 年

21

シンポジウムの要点

• 人文系の学問が軽視される中、英語史に対する関心は案外高まっている？

• 教職

• 英語史教育の実践例

• 数々の

• いかにして研究成果を生かすのか

• 片見 彰夫・川端 朋広・山本 史歩子（編）『英語教師のための英語史』 開拓社, 2018 年

• 朝尾 幸次郎『英語の歴史から考える英文法の「なぜ」2』 大修館書店, 2021 年

22

シンポジウムの要点

• 吉田雅之氏「身近な単語から始める音変化と歴史言語学」

• 山本史歩子氏「英語教員を目指す学生から見た英語史」

• 矢富弘氏「英語史と歴史社会言語学の教育現場での融合と実践」

• 森田真登氏「高等学校英語教育における英語史の活用」

23

シンポジウムの要点

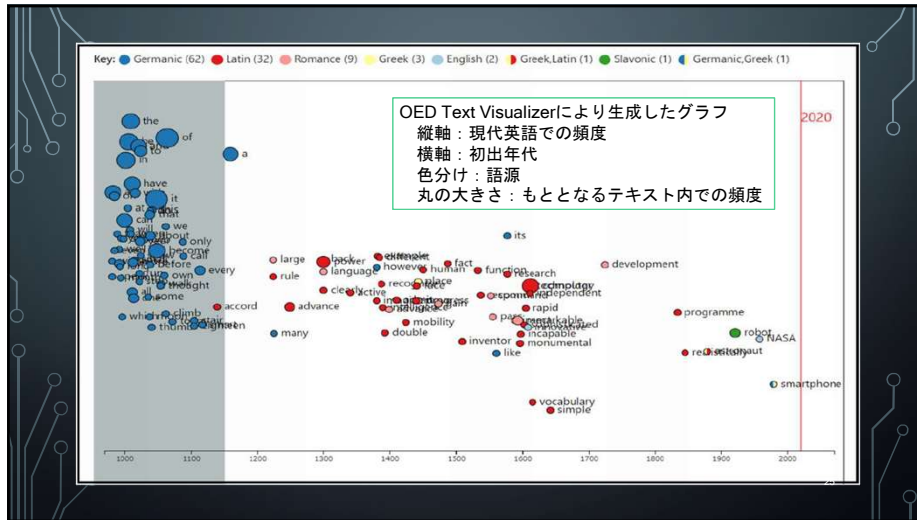
• 森田氏の実践

• 高2英語における英語史的知見の活用例

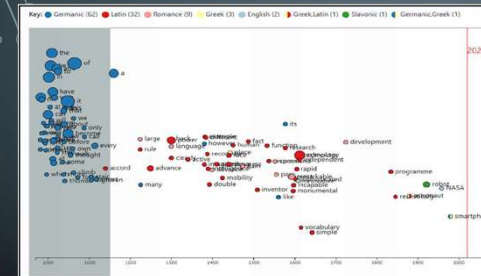
• なぜ、英語には同義語がたくさんあるのか？

• 教科書の文章に現れる語彙を歴史的に分析させ、上記の問いに対する答えを生徒が主体となって探っていく

24



グラフを見た生徒の反応



- 青色で使用頻度が高いものは英語を習うとき基礎的なものが多い
- フランス語やラテン語から借りた語は、日本語でいう自立語が多い
- 青の方がスペルが短い
- フランス語やラテン語から借りた単語が増えていった など

→生徒たちの気づきに絡めて、ノルマン征服や類義語が多いわけを解説

26

報告者の感想

- 言葉を「使う」楽しみ、言葉を「知る」楽しみ
→英語史教育は主に後者に貢献
- 納得して覚えたことはそうそう忘れない
- 文学傾倒の古典国語... (もっと日本語の変化を楽しんでほしい)
- 一般言語学・記述言語学の知見の教育への還元 (いきなり言語学はハードルが高いが...)

27

ご清聴ありがとうございました

28